

国内LPG車市場は、2018年3月末時点で前年度比6・9%減の19万2859台となっている。内訳は、営業用が同6・8%減の17万356台、自家用が同7・2%減の2万2503台。自動車用LPGガス年間販売量も同8・0%減の71万6158tで、オートガススタンド数は同2・3%減の1730カ所となっている。近年の国内LPGガス市場縮小に合わせ、LPG車市場も苦戦が続いている。

一昨年発売されたトヨタ自動車のLPGガスハイブリッドタクシー「ジャパンタクシー」は、新開発のLPGガスハイブリッドシステムが搭載され、環境性能と動力性能を高次元で両立させた。LPGガスのハイブリッドシステムで、約2倍に引き上げられた燃費性能や標準装備された自動ブレーキ機能、大開口リアスライドドアなどが大きな注目を集めた。

国や地方自治体などの後押しもあり、販売は堅調に伸長。累計生産台数も1万台に迫る勢いだ。燃費のよさがタクシー業界への普及を促進した反面、オートガスとしての需要は頭打ちを迎える懸念が残る。ジャパンタクシー以外では、日産自動車のハイフューエル車「NV200」以外、目立ったラインアップは少ない。こうした中、改造車ではHKS（静岡県富士宮市）のトヨタ「プロボックス／サクシード」用LPGバイフューエル車も話題を集めている。

# 改造車や簡易スタンドに注目

## LPG車市場 充填口国際規格はJ15採用

ハイフューエルシステムは、LPGガスとガソリンを切り替えながら走る。



行。始動時はガソリンを使い、水温など諸条件が整うと自動的にLPGガスへ切り替わるという独自の仕様。LPGガス容器は47・5ℓの容量容器を荷室下に搭載。2つの燃料で長距離走行を可能にし、災害時のエネルギーセキュリティに優れたシステム主要部には

国産品を使用し、バイフューエル架装も専用工場で徹底した品質管理のもとで施工している。HKS版プロボックスは、LPGガスの最高航続距離が約600km。ガソリンと合わせ1000kmを超える。燃料消費シミュレーションはLPGガス9・ガソリン1。手動で片方



J15とK15（写真上）、ジャパンタクシー（同下）

を選ぶことも可能。カクラベーパーテック（兵庫県尼崎市の取り付け組みも注目される。同社は、差圧式簡易オートガススタンド「オートコンボ」の大型タイプ（AC-LSA）を発売。2・5t横型バルク貯槽を核とするユニットで、ティスベロンサーを2基搭載し2台の車両に同時充填で

一方、懸案だったLPG車充填口問題については、一昨年秋年に開かれたISO（国際標準化機構）国際会議で、欧州規格ノズル「K15」と日本規格ノズル「J15」の併記が正式承認され、今年1月に発行される予定。3年前のISO会議では欧州側がK15への統一を提案しており、日本側は劣勢を強いられていた。しかし、

ユニットサイズは約2100×5000mmと中型自動車1台分。1回の充填量は60ℓで、充填スピードはオートガスで毎分16〜21ℓ。LPGスタンドリニョール用やタクシー事業者の自家スタンド用として販売。最近では、簡易スタンド「オートコンボ」を設置し営業車をLPG車に燃料転換する事例も増えている。